



北海道議会議員
道議会水産林務常任委員会副委員長

吉田正人さん

私の決意



水産林務委員会副委員長を拝命しました

が行われ、未明までの議会や再三の議員と密接に連携しながら、皆さ
会期延長、緊急経済対策に伴う臨時 まと道政や国政のパイプ役とし
議会と、各会派がそれぞれの主張を て、ふるさとを元気にするために
ぶつけ合う場面が続きました。

道議会の調整役として得難い体 後期二年間は、地元にもかかわり
験をしましたが、これを糧として次 の深い水産林務委員会副委員長や、
のステージに生かしたいと思っ 道の附属機関である北海道都市計
画審議会委員を拝命しました。稚内

げます。

この二年間、道議会議会運営委員

で自民党筆頭理事の職を精一杯務
めさせていただきました。支庁制度

改革をはじめ道路特定財源問題、行
財政改革、市町村合併など山積する
道政上の懸案を巡って活発な議論

は稚内市にも影響を及ぼし、迅速、
的確な対応が必要になっていま
す。苦しい時だからこそ、知恵と汗

を出し合って、底力を発揮しなけ
ればなりません。自民党北海道第
十二選挙区支部長の武部勤衆議院

北海道議会議員
道議会水産林務常任委員会副委員長
吉田 正人

カいっぱい、
いちずに、ひたむきに、
どんどん未来へ。

吉田正人道議が着実にパワーアップしていま
す。道議二期目の前期二年は自民党・道民会議の議
運筆頭理事として他党派と渡り合ったほか、平成
二十一年第二回定例道議会予算特別委員会副委
員長として堂々の議事さばきをみせました。後期
二年は水産林務委員会副委員長のポストに就き、
第一次産業の振興に腕を振ります。「ふるさと・
稚内市のために頑張ります」と、吉田道議はいつも
全力投球です。

自由民主
LIBERAL & DEMOCRATIC

発行所
自由民主党本部
郵便番号100-8910
東京都千代田区永田町1-11-23
電話 東京 03(3581)6211(代表)
振替口座 東京00180-1-19518
定価1部105円(税込み)
〈毎週火曜日発行〉

自由民主党ホームページ URL <http://www.jimin.or.jp/>

平成21年7月11日(土曜日)発行 〈号外〉

稚内市版

ご入会をお待ちしています。

吉田正人
連合後援会

〒097-0021 稚内市港1丁目4番2号
(自由会館1F)

TEL (0162) 24-4351

FAX (0162) 24-0779

連合後援会長 安藤善則

■吉田正人道議のプロフィール／昭和35年7月13日稚内市生まれ。東海大学海洋学
部水産学科増殖科卒。会社員、稚内青年会議所副理事長などを経て、平成13年12
月、父政一道議(議長など歴任)の急逝に伴い道議会議員補欠選挙に出馬し惜敗。同
15年4月の再挑戦で初当選、現在二期目。その間、道議会水産林務常任委員、同総合
開発特別委員、同議会運営委員、党道連政務調査会委員、道議会自民党・道民会議
水産議員連盟事務局、道議会総合企画常任委員会理事、同食と観光対策特別委
員、同議会運営委員会筆頭理事、自民党道連常任総務、同組織副委員長。現在、道議会
水産林務常任副委員長、同北方領土特別委員会理事、北海道都市計画審議会委員。

吉田道議が積極的な意見

議会改革協が最終報告まとめる

道議会各会派で構成する二十八期議会改革等検討協議会は六月十五日、二年間の検討結果を最終報告としてまとめ、釣部勲議長に提出しました。

同協議会は議長の諮問機関として平成十九年六月に設置され、これまで五十回の会議を開き、五回の中間報告を行ってあります。自民党・道民会議からは議会運営委員会筆頭理事である吉田正人道議も参加し、議員報酬や費用弁償、政務調査費、議会のIT化などについて建設的な意見を出しました。

最終報告には、政務調査費について使途を専門家がチェック

する「議会政務調査費調査等協議会」の設置、「使途基準等に関する運用方針」などが盛り込まれました。また、これまでの中間報告では月額報酬を二〇%削減、政務調査費の領収書を全面公開し、本年度は現行の「五万円以上」「二万円以上」とするなどとしています。

吉田道議は「改善の余地はあるが、二年間にわたり一生懸命論議を積み重ねてきた」と話しています。

吉田道議が島サミットで本道をPR

「第五回日本・太平洋諸島フォーラム(PIF)首脳会議」(太平洋・島サミット)が五月二十二、二十三の両日、上川管内占冠村で開かれました。

麻生総理が共同議長を務め、十六カ国・地域の代表・関係者が環境・気候変動問題や人間の安全保障に関する問題など、太平洋諸島地域で抱える課題を話し合いました。

道議会食と観光対策特別委員である吉田正人道議は、サミットに参加した各国のメンバーと交流し、本道観光を盛んにPRしました。



◀高橋知事主催の昼食会で

▶マーシャル諸島共和国、リトクワ・トメイン大統領(右から3番目)、ジベ・カプア駐日大使(左から3番目)と



食と観光対策特別委員会で質問

北海道観光の積極的な振興策を求める



を求めました。

①食と観光の施策について

吉田正人委員 「食と観光対策特別委員会」の設置後、食と観光をリンクさせた施策にはどのようなものがあるのか。

今井経済部観光局参事 「北海道さつぽろ食と観光情報館」の整備、「北のめぐみ愛食フェア」やオリジナル料理の提供などを行った。今後とも農業など一次産業との連携による食の魅力アップの取り組みを支援するなど、食と観光の一層の連携に努めたい。

②他府県等と北海道観光の差別化について

吉田委員 観光の競争激化に対応し、他府県や近隣海外と北海道観光の違いを明確化していく必要がある。

林信男経済部観光局参事 他県にはない明瞭な四季や自然、温泉、花、食など優位性のある多様な観光資源を生かしたグリーン・ツーリズムやアウトドアなどの体験型観光や新たなツーリズムを推進し、「ゆとりツーリズム」といった新しい旅のスタイルの普及に取り組むなどして、一層の魅力づくりに努めたい。

③新たな取り組みの検討について

吉田委員 委員会で相乗りワゴンでの観光やレンタルキャンピングカー観光などを提案したが、その後、何か検討したのか。

今井参事 現在進めている滞在型の観光地づくりのために、オプショナルツアーなどによる地域発着地型観光を充実させていくことは有効な方策の一つ。カーナビゲーションやレンタルキャンピングカーについては、本道観光の魅力向上につながるように努めたい。

④JR北海道の観光の取り組みについて

吉田委員 JR北海道に千歳―札幌間の高速化や車内イベント・観光車両などの視点に立つたJRのあり方についての見解をうかがう。

林参事 環境客が楽しく道内旅行をする上で、JR北海道の果たす役割は大きい。今後ともさまざまな面で連携を図っていく中で、魅力ある新しい企画の実施についてもお願いしていく。

⑤北海道ならではの新たな取り組みについて

吉田委員 観光とアイデアの必要性について、道として考え

ている新たな施策や取り組みをうかがう。

柴田達夫経済部観光局長 今年度は地域や民間からのアイデアやニーズをもとに、道民自らが道内旅行を楽しむための地域観光の需要喚起を図るキャンペーンや、観光事業者と異業種との連携による観光商品の開発などに取り組む。

⑥今後の北海道観光について

吉田委員 観光の差別化を進めるために、北海道観光振興機構での意見を踏まえ、どのような政策を展開するのか。

江本英晴経済部参事監 観光機構では滞在型観光に重点を置いて、多彩な観光メニューの提供などに取り組む。道はこれらの意見を踏まえ、「ゆとりツーリズム」、グリーン・ツーリズム、アウトドアなどの体験型観光プログラムの作成など、地域の特色を生かした体験観光の推進や滞在型観光の促進に取り組む。

